



Data

監督・脚本：藤井道人

原案：阿部進之介

出演：阿部進之介／安藤政信／清原果耶／小西真奈美／佐津川愛美／渡辺裕之／室井滋／田中哲司

👁️👁️ みどころ

薄っぺらで万人受けする作品ばかりが目立つ近時の邦画界の中、俳優の山田孝之らがオリジナル脚本で挑んだ難しいテーマは、トルストイの『戦争と平和』やドストエフスキーの『罪と罰』と同じ、人間の善と悪！父親はなぜ自殺を？巨悪を暴くのは善ではないの？

『空飛ぶタイヤ』（18年）では、一介の町工場による巨大メーカーの追及が“吉”と出たが、普通はそんなドン・キホーテ的蛮勇の結果は“凶”と出るらしい。他方、ボランティア的に児童養護施設「風車の家」を営む男は一見“善”だが、その資金源を見ると・・・？

何が善で何が悪？それは難問だが、本作の結末の是非を含めて、しっかり考えたい。



■□■人間の善と悪とは？オリジナル脚本で難問に挑戦！■□■

ロシアを代表する“世界文学全集”といえ、トルストイの『戦争と平和』とドストエフスキーの『罪と罰』。両者とも“人間の善と悪”をテーマとした難解な作品だが、遅くとも中高生時代までの必読小説だ。本格的文学は人間の本質に迫ることを1つの目標にしているから、“人間の善と悪”に如何に向き合い、それを如何に描くかがテーマになる。したがって、『戦争と平和』や『罪と罰』レベルまでは到達しなくても、それにチャレンジする小説は多い。

それは映画でも同じ。とりわけ“人間の悪”に焦点を当てた映画は比較的撮りやすいこともあって、例えば、私の大好きな園子温監督の『冷たい熱帯魚』（10年）（『シネマ26』

172 頁) や、白石和彌監督の『凶悪』(13 年) (『シネマ 31』195 頁) はその典型だ。もっとも、今時、つまり平成の 30 年間が終わろうとする今の時代の邦画はエンタメ作品花ざかりで、そんな難しいテーマに真正面から挑戦する映画は少ない。そんな状況下、完全オリジナル脚本でそんな難問にチャレンジしたのは、一体誰?そして、どんなチーム・・・?

■□■俳優の山田孝之らが、「邦画界に風穴を！」の意欲で■□■

キネマ旬報 2 月上旬号 (59~63 頁) は「グラビアインタビュー・デイズナイト」として、「阿部進之介、藤井道人 (監督)、山田孝之 (プロデューサー)」の対談を掲載した。私は山田孝之は俳優として知っていたが、藤井道人監督は全く知らなかった。また、“あべしんのすけ”と聞いて私は、すぐに読売巨人軍の捕手阿部慎之助を思い浮かべていたが、俳優の阿部進之介も有名らしい。

それはともかく、この対談を読めば、彼ら 3 人が今の邦画界に大きな不満を持っており、俳優の生の言葉で脚本を作る必要性を痛感していたことがよくわかる。その結果、彼らは構想 5 年、2 8 稿に及ぶ脚本の下、プロデューサー×監督×主演として本作を完成させたい。同対談は「日本の映画界に風穴を開ける、は言い過ぎだとしても、新たな可能性を示すものであるのは間違いない。」と結ばれているが、さて・・・。

■□■父親が自殺！東京から故郷に戻ってみると・・・?■□■

本作は今ドキの邦画には珍しく、冒頭から緊張感が漂っている。明石幸次 (阿部進之介) が 1 人でキャリーバッグを引きずりながら故郷に戻ってきたのは父親・明石和幸 (渡辺裕之) の葬儀のためだが、明石の自宅の扉にはペンキで死者をむち打つような酷い落書きが描かれていた。また、葬儀も身内の 3 人だけで、参列者は誰もいないから寂しいものだ。大手自動車メーカーの企業城下町で、町のみならず同じような下請けの自動車工場“明石モータース”を経営していた父親、和幸が、ある部品の強度不足とデータの改ざんを告発すると、さあ告発されたメーカーの対応は?また、同業者たちの対応は?和幸の行動は、まさに“ドン・キホーテの蛮勇”と同じだったようで、告発はもみ消されてしまったうえ、仕事から干されてしまい、明石モータースは倒産。そして、和幸は莫大な借金を背負ったまま自殺に追い込まれてしまったらしい。

しかして、和幸はなぜそんな行動を?故郷に戻ってきた明石に対して、母親の京子 (室井滋) も妹もそんな事情を一言も説明してくれなかったから、明石は何が何やらサッパリわからないままだ。もっとも、明石は仕事ばかりで子供に関心を持たない父親を嫌って 1 人東京で過ごしていたのだから、そんな出来事を無視し、“相続放棄”をすればそれで終わりだが、さあ明石はどうするの?

■□■親父は悪いことをしたの?いやいや!それなのに!■□■

平成ラストの時代にタイムリーに登場した『明日にかける橋 1989年の思い出』(17年)では、2010年の今から1989年の昔にタイムスリップしたヒロインを故郷の同級生たちが温かく迎えてくれていた(『シネマ42』50頁)。しかし、本作では和幸の自殺の話になると、明石の昔の同級生たちは和幸の悪口ばかり。ちゃんとした事情を聞こうとしても、口を閉じたままだ。今この企業城下町で下請工場を仕切っているのは自動車会社重役の三宅良平(田中哲司)のようだが、その三宅が形ばかりのお悔やみを述べるため明石の家を訪れると、京子は「和幸を殺したのは、あんただ!」と烈火の如く怒り狂っていた。それは一体なぜ・・・?

池井戸潤の原作を映画化した『空飛ぶタイヤ』(18年)は、ショッキングなタイトルどおり、欠陥タイヤ問題に焦点を当てた社会問題提起作だった(『シネマ42』未掲載)。しかし、一介の町工場が巨大自動車メーカーの車に「欠陥あり!」などとケチをつけるのはある意味で自殺行為。その自動車メーカーやその周辺企業のすべてを敵に回し、自分で自分の首を絞めるだけだと考えるのが常識だ。『空飛ぶタイヤ』ではそんな常識に反して、ある青年社長の“熱き正義感”が全編を貫き、結果的に“吉”と出ていたが、本作の和幸は?

本作を観ていると、和幸の“熱き正義感”は“凶”と出たらしい。すると、俺の親父は何か悪いことをしたの?いやいや、そんなことはないはずだ。それなのに、故郷の同業者や昔の同級生たちのこの対応は一体ナニ?なぜ、みんな親父のことを悪く言うの?

そんな戸惑いの中、明石は偶然出会った男、北村健一(安藤政信)から「いつでも力になるよ」と言われていたため、ある日北村が経営している児童養護施設「風車の家」を訪れてみると・・・?

■何が善?何が悪?それを具体的に!現実に!■

私は仕事の関係で淡路島のリゾート地にある“風車による低周波公害”問題に関与したことがあるので、風車には興味がある。そんな私にとって、スクリーン上に再三登場する海沿いの風車の風景は実に美しい。そのロケ地は秋田県らしいが、北村の経営する養護施設が「風車の家」と命名されているのは一体なぜ?日常生活を普通に営んでいる限り、「何が善で?何が悪?そして、俺はそのどちら側にいるの?」という難しい問いを発する機会はずっと存在しない。それは、日本の国民映画となった『男はつらいよ』シリーズにそんなセリフは一切登場しないことを考えても明らかだ。しかし、本作の脚本では冒頭からあえてそんな哲学的かつ根源的なセリフを登場させてくるので、それに注目!

「養護施設」の経営には資格や規模、財政等の面で、様々な法律上の要件をクリアする必要があるので、弁護士の中には「風車の家」がそれをちゃんと充足しているのか否かはかなり疑問。しかし、それは映画の出来とは関係ないから無視すれば、両親から捨てられてしまった子供たちの世話をしている「風車の家」の運営は完全に“善”だが、その資金面を見ると、完全に“悪”。それは、明石が最初は「見学だけでいいから」と言われて、

北村が同時に経営している自動車整備工場の若者たちに導かれるまま出かけた「夜の仕事」の内容をみれば明らかだ。今どきの車はすべて電子錠だが、それを突破さえすれば、施錠を破るのは簡単。そしてドアを開けさえすれば、車を盗み出して解体し、東南アジアに売り払うのは簡単だし、証拠は残らず現金だけがガバガバと・・・。

このように、「風車の家」では何が善で何が悪か明確だが、それは世間の基準とは大きくずれているはず。そのため、明石は最初大いに面食らったが、昼間は「風車の家」で子どもたちの食事づくりの仕事をやり、夜はそんな荒っぽい仕事での生計が確立していくと・・・。

■□■奈々の出自は？進路は？明石との関係は？■□■

社会派としての問題提起性を徹底させた『空飛ぶタイヤ』では魅力的な女優を出演させる必要はなかった(?)が、人間の善と悪を根源的に問い、そのネタとして(?)、北村による「風車の家」の“善と悪”を観客に見せつけた本作では、「風車の家」で生活している不思議な美少女・奈々(清原果耶)の存在が大きなポイントになる、「風車の家」で生活できるのは高校生までだから、卒業間近の奈々は今、進路先を決めなければならない立場だ。奈々は絵を描くのが大好きだから東京の美大に進学したい気持ちもあったが、カネのことを考えると、先生に言われるまでもなく、そりゃ到底ムリ。しかし、そんな奈々の前に突然東京に住んでいた明石が現れると、奈々はいかにもその年頃の女の子にありがちな不思議な対応で明石に接してくることに・・・。

現在NHKの人気番組になっている『チョコちゃんに叱られる!』では「ねえねえ岡村、〇〇をどう思う?」という問いかけが定番だが、本作では奈々の「ねえ、明石は〇〇についてどう思う?」という問いかけが目につく。しかし、「ねえ、明石にはガールフレンドはいるの?」という微妙な問いに対する明石の反応は?単純な明石の頭の構造では、奈々のそんな質問に適確に返事できないのは仕方ない。そこで明石が「奈々にはボーイフレンドはいるの?」と聞き返すと、奈々からは「やっぱり明石は私に関心があるんだ」と切り返されたから、この手の話題ではやはり女の子の方が一枚上手だ。さあ、そんな奈々の出自は?進路は?そして明石との関係は?

そう思っていると、本作中盤では奈々と北村との“あっと驚く関係”がスクリーン上に登場してくるうえ、ある日北村の死体に明石が対面することになるから、それに注目!そこから辺りはあなた自身の目でしっかり見てもらいたいが、それまで北村のリーダーシップで「風車の家」と「自動車工場」は経営されていたのだから、その北村がいなくなると両者はやっていけるの?そう心配していると、案の定、ある日今までどおり“夜の仕事”に出かけていったスタッフの1人が警察に検挙されることに。このような形で、大量の自動車窃盗とその海外へのヤミ販売がマスコミ報道されると、もはや「風車の家」と「自動車工場」との経営はムリ。すると、やっぱり明石も父親と同じように敗者となり自殺の道をと・・・?

■□この選択は如何なもの？“殴り込み”の解決は？■□

かつての東映任侠映画のクライマックスは、我慢の限界を超えた鶴田浩二や高倉健扮するヤクザ者が単身で敵の本丸に“殴り込み”をかけるパターンだったが、その結末は決して誉められるものではなかった。高橋英樹扮する主人公がせっかく医師免許を取りながら、ヤクザの2代目を継いだ『男の紋章』シリーズでも、やはり主人公はラストで警察に出頭することになったから、和泉雅子扮する若妻は彼の帰りを待たなければならなかった。しかして今、明石が頼りにしていた北村が敗者となり、父親の告発をもみ消す中心人物となった三宅がそれまで以上に権勢を誇る状況になると、明石は・・・？

何ら有力な味方を持っていない明石の情報源が限られていたのは仕方ない。同級生たちがキャバクラで大声でしゃべっている話の中に1つの有力情報があったが、それを確認し、資料を入手するためには、どんな方法が？本作における明石の行動を見ていると、その単純さ・未熟さに唾然とせざるを得ないが、30歳くらいの若者の知恵ではそれも仕方なし。違法な手段でやっと入手した“ある書類”をマスコミに送りつけても、マスコミがすぐにそれを発表し、メーカーを告発してくれるほど世の中は単純ではない。すると、多分父親が受けたのと同じような“もみ消し工作”の挙句、明石も町全体から干されてしまうことになってしまうのでは・・・？そんな中、鶴田浩二や高倉健なら着流し姿でドス1本持って殴り込みをかければそれなりにカッコが付くが、さて明石の場合は・・・？

本作ラストに見る、明石の選択と行動をあなたはどうか考える？その結末をしっかりと確認しながら、本作のタイトルとされている『ダイヤモンドナイト』の意味をしっかりと考えたい。

2019（平成31）年2月5日記